# わが校の紹介

## 「自立・協同・勤勉」

養父市立八鹿中学校
伊井　脩

どんなに時代が変わろうとどんなに多くの生徒が入れ替わろうと、学校には変わることなく営々として生き続けているものがある。

その一つが「校訓」である。ちなみに本校の校訓は、「自立・協同・勤勉」である。この「校訓」を本校教育の縦軸とするなら横軸は、黒牛に乗り、的に向かって矢を放とうとする若者を描いた「貫徹の像」にあらわれる精神である。この「貫徹の像」は、統合新校舎の完成に際し、八鹿中学校に集い学ぶすべての生徒が、「強靭な意志と体力を持ち、真理を探究する生徒」となる願いを込めて、「小谷謙」氏から寄贈されたものであると聞いている。以来、校訓と貫徹の精神は、学校教育の両軸として多くの卒業生の血肉として生き続けているはずである。

貫徹の像

さて、今日も元気でさわやかな朝の挨拶とともに学校生活が始まった。運動場や体育館では、秋の新人大会に向けて懸命に練習に取り組む一・二年生の姿がある。そして、三年生教室では、朝少し早く登校して学習に取り組む生徒の姿がある。

学校は、「学舎（まなびや）」とも書く。その学舎は、「強靭な意志と体力を身につけ、真理を探求する」場である。

わが校は、生徒が落ち着いて学ぶことのできる「時間と空間」があり、そして学習や運動に取り組む生徒の真剣な眼差しと、それを支援する保護者と地域社会のあたたかい眼差しがともにみえる学舎である。

## 窓　情報化の光と影

養父市では、小学生の三人に一人、中学生の二人に一人が家庭においてインターネットを利用しています。また、家の居間以外の部屋にコンピュータが置かれ、自分一人で自由に使える小学生は十六％、中学生で四十％です。

インターネットは、様々な情報を得ることや多くの人と簡単に通信できるなど大変有益なものです。しかし、ネット上には、犯罪や詐欺などのトラブルに巻き込まれる危険性が潜んでいます。

子どもたちは使うことに慣れていても、出会い系サイト等の有害サイトから心理的に大きな影響を受けやすいものです。

安心して利用させられるインターネット環境を家庭において整備するためには、『家族の目の届く場所・時間で使用させる』などその使い方について親子で話し合ってルールを作る必要があります。また、子どもたちが見ている内容についても関心をもっておきましょう。

（学校教育課）

## まちの文化財⑥

### ～一宮神社（いちのみや）の社叢（しゃそう）～

一宮神社は大屋町中区と由良区の約一五〇戸が守っている大きな神社です。

この神社の森は、シラカシとカゴノキなどの大木が茂るだけでなく、エノキの大木もある貴重な森です。昭和五九年に一宮神社の社叢という名称で、約一万平方㍍の範囲が県指定の天然記念物となりました。

養父市に大変な被害をあたえた台風二三号で、一宮神社のすぐ裏側が長さ二十五㍍、幅十五㍍にわたって崩れました。そして土砂とともに直径八十㌢、長さ三十㍍をこえるエノキの大木が二本、本殿の真上に倒れて社殿を押しつぶしました。

神社総代の三方貞雄さんは、「二十一日の朝六時頃に被害が分かりました。まだ上には直径八十㌢もあるエノキの大木の根がおきて、境内に傾いています。ほかのシラカシやエノキも倒れるかもしれません。二次災害が起きると拝殿も摂社もつぶれてしまいます。早急に切るように相談しています。大変なことです」と話しました。

県指定の文化財であることから市教育委員会に被害を連絡し許可をえて、倒木の恐れのある大木を切りました。

大木の茂る風格のある神社の森で、大きな台風被害が発生しました。また八木城跡や大薮古墳群でも倒木や地滑り被害が発生しています。

八鹿高校の盛谷浩先生は「一宮神社の森は、雪の多い寒い内陸部の山間に、日本海沿いにみられる温帯の常緑広葉樹（シイ帯）が入りこんだ南西端にあたり、但馬の内陸部の森の姿を教えてくれます。杉の植林や炭焼きで失われた里山の原形がここにあります。エノキにとっても数百年ぶりの災害です」と解説します。

（社会教育課）